

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	学習課題を明確にし、個別や話し合いながら課題解決させる時間を設けるなど、児童が主体的に学習に取り組めるような授業を目指す。	中間 評価		最終 評価	
環境づくり		児童が自主的に行動できるように、教室内の表示や掲示物の内容・配置を工夫する。児童が自分の考えや気持ちを表現できるように、ハンドサインを引き続き学校全体で取り組んでいく。				

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10 月）	課 題（10 月）	改善のための取組み（10 月）	最終評価（2 月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4 月）	課 題（4 月）	改善のための取組み（4 月）	中間評価・追加する取組み（10 月）	最終評価（2 月）
2	国語	学習した漢字を活用できていない児童が多い。 学言葉の意味はだいたい理解できているが、文章で表現する力に差がある。	・習った漢字を正しく活用できていない。 ・文と文との続き方に注意しながら繋がりのある文を書くことが苦手である。	・いろいろな教科の授業の中で習った文字を使って書くように指導する。 ・「いつ・どこで・だれが・何をした」などを意識して文章を書くように日記の宿題を出して、継続的に指導する。		
	算数	学簡単な計算間違いをすることがある。 学計算はできるが、自分の考えを表現することが苦手なところがある。	・簡単な計算間違いに自分で気が付くことができない。 ・自分の考えを表現することが苦手である。	・見直しする習慣をつけるように指導する。 ・さまざまな考え方が表現できるように、教材を用意したり、考え方を掲示したりして手立てを講じる。		
3	国語	調学力調査の結果から、「漢字を書く」ことについて、区の平均よりも 1. 6 ポイント低いことが分かっている。 学どの児童も一生懸命に学習に取り組むが、定着度のばらつきがある。文を書くときや意見を発表するときにもそれは感じられる。	・習った漢字を日常の中で使えていない。そのため定着が不十分になっている。 ・自分の考えの大事な部分を、伝えることが不十分である。	・日頃の練習だけでなく、定着を図る小テストも取り入れて、習った漢字を日常で使えるようにしていく。 ・自分の考えをもつための時間を確保し、伝える、聞くそれぞれの観点をもって活動できるようにしていく。		
	算数	調かけ算と単位換算の項目が、区の平均よりも若干下回っている。また、意識調査の、「考えたことを友達と話し合っている。」の項目が区の平均に比べて 1 0 ポイント以上下回っていた。	・かけ算九九や単位換算の定着にばらつきがある。 ・自分の考えを発表したり、相手の考えを聞いたりする経験が浅い。	・かけ算九九の復習を続け、定着を確かなものにする。 ・単位の量感を体験する機会を増やし、習得できるようにしていく。 ・自分で解き方を考える時間を確保し、それを友達と交流していくようにする。		
4	国語	調調査の結果から下位の児童は既習の漢字を使うことの意識が低い児童が見られる。 学話す力についてグループ活動や発表などで自分の考えを構築したり、伝え合ったりすることができた。	・漢字の習熟については個人差が大きい。 ・文章に誤字脱字が多く見られる児童がいる。	・4 年生でも新出漢字が多く出てきているので家庭学習や朝自習に漢字学習を取り入れていく。 ・国語の時間や宿題で視写を行う。		
	算数	調調査の結果からどの分野も 3 ～ 1 0 ポイント目標値を上回っていた。しかし習熟度合いが十分とは言えない児童の学力を上げ、定着させることと、時刻・時間や長さや重さの量感が身についてない児童が見られる。	・学習した内容を生かして思考し、課題を解決することが苦手である。 ・発表している児童が限られている。	・単元の終末で児童の実態に応じた発展的な問題をまとめ、取り組ませる。 ・児童の習熟にあった問題を提示し、自信をつけさせる。		
5	国語	調昨年度の学力調査ではどの分野もほとんど目標値を上回っている。「作文」については目標値をわずかに上回る程度である。段落等文のつなぎ方は比較的理解できている様子が見られるため、今後は文章を書くときに目的に合わせて内容を具体的に記述する力を向上させる必要がある。 学言語事項の理解、作文能力について個人差が見られる。語彙の豊富さに課題がある。	・漢字の習熟については個人差が大きい。 ・まとまった量の文章を、構成を考えて書くことを苦手とする児童が存在する。 ・語彙が少ない。	・多くの新出漢字が出てくるので、家庭学習や朝自習の時間に漢字学習を取り入れていく。また、小テストの結果を受けて家庭学習を行うよううながすにする。 ・書く活動を増やし、テーマを決め、決まった量の文章を決まった時間に書く経験を積ませるようにする。家庭学習で日記を取り入れる。 ・国語科の言語事項の学習を工夫し、児童の語彙を増やす。		

	算数	【調】全体的にみると、目標値を上回っている。しかし「億・兆」といった数字の相対的な大きさの把握や記数法での表記や「題意を捉えてわけを説明する」ことを苦手としている傾向がある。今後は大きな数について知識・理解を定着することや他の人の思考についても説明するような学習活動が必要であると思われる。 【学】児童の学習内容に対する理解はおおむね良好である。既習事項を用いて新しい内容を考える力に個人差があり、学習への意欲的な取り組みに差ができる。	・基本事項の習得に差がある。 ・算数的な考え方を表現することに苦手意識のある児童が多い。	・昨年度は算数を苦手とする児童に対して、理解度を確認するための小テストを繰り返したことで一定の成果を上げることができた。小テストは今年度も続けて行く。少人数指導では、習熟度に合わせた教材開発を行い、算数への興味・関心を高めていく。 ・考えを交流したり、式によってあらわされた友達の考えを言語化したりする活動を多く取り入れるようにする。		
6	国語	【調】教科全体としては全国平均、区平均とも上回る正答率であった。問題の内容ごとに見てみると言語の理解の内容のみ、区の平均を下回る結果であった。 【学】書く能力に大きな個人差が見られる。書くための資料の情報処理能力に課題が見られる児童がいる。	・漢字や文法等の言語事項の理解について個人差が見られる。 ・文章を書くときに、書くために必要な情報を整理したり、文章構成を組み立てたりすることを苦手とする児童がいる。	・家庭学習や朝自習において、東京ベーシックドリルにある言語に関する問題に継続に取り組ませ、理解を図っていく。 ・授業で文章を書くときに、書く活動の見通し（文章量・書く時間・目的）を具体的に示すことで書く力を育てていく。		
	算数	【調】教科全体としては全国平均、区平均とも上回る正答率であった。問題の内容ごとに見ると、単位量当たりの大きさに関する内容の理解のみ、区の平均正答率を下回った。 【学】学習内容の理解、論理的な思考力に個人差が見られる。十分に理解できている児童が見られる反面、内容の理解に時間がかかる児童も見られる。	・その数値の量感を把握することができない児童が見られる。 ・学習内容に関わらず、理解に時間がかかったり、思考表現を苦手としたりする児童がいる。	・授業での数の感覚や量感覚を養うために、具体物を用いて学習を展開したり、身近な数値と関係付けて捉えさせたりしていく。 ・習熟度別指導を通して、児童の実態に合わせた問題を提示したり、課題となるプリントに取り組ませたりすることで、確実な理解を図っていく。		
音楽	進んで表現しようとする児童が多く見られる。		・器楽の技能に個人差が見られる。 ・「表現の創意工夫」について、不十分な面が見られる。	・個別指導や少人数での学習など、学習形態の工夫をする。 ・音楽の要素を手掛かりにして、鑑賞したり、曲想を生かした表現の工夫をしったりする活動を取り入れる。		
図工	意欲的に活動に取り組み、自ら工夫して表現できる児童が多い。		自己表現することに対してや、表現したものを見せることに対して消極的な児童もいる。	毎回の授業で振り返りを行い、できたという達成感を積み上げることで自己肯定感を高めていく。また、鑑賞の授業を計画的に行い、よさを認め合う態度を育てる。		
特支	・自己肯定感が低い児童が多くみられる。 ・読んだり書いたりすることに課題を抱えている児童が多い。 ・コミュニケーションをとるのが難しい児童がみられる。 ・体の使い方がぎこちなかったり、姿勢を保ったりすることが困難な児童がいる。		・自己肯定感が低いために、様々な学習活動に意欲的に取り組むことができない。 ・読んだり書いたりすることは、全教科・領域にかかわるため学習に支障をきたす要因となっている。 ・相手の気持ちを想像することが難しかったり、自分の気持ちや考えを適切に表現できなかったりして、上手く人間関係を築くことができない。 ・自分の体を上手くコントロールできないため、学習に集中することができない。	・『頑張リシール』など視覚化した教材を使い、できたことを実感できるようにしたり、スモールステップで課題に取り組みできた経験を積んだりする。 ・認知トレーニングを行ったり、特性に合わせた指導を行ったりする。 ・ソーシャルスキルの課題を行い、学級に汎化させる。 ・感覚統合の運動を取り入れる。		

【調】…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

【学】…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。